

平成 19 年(2007 年)9 月 15 日(土) 大系タイムスの報道
白馬 用地選定の問題点指摘/新ごみ処理施設めぐり住民会合

北アルプス広域連合が建設候補地を白馬村飯森地区とした新ごみ処理施設計画で、同村内団体に組織する「白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会」(宮田温巳会長)は 13 日、勉強会をふれあいセンターで開いた。情報公開条例で入手した文書資料をもとに、公式でない会議で用地を絞り込んだとみられると指摘し、用地選定過程に問題点があったと訴えた。

同会は、18 年 10 月 20 日に 3 市村の首長や助役、担当課長などで開いた打ち合わせ会議の広域連合が作成した「次第」で、候補地を白馬村内に限定する文章を指摘。「中継施設が不要な点から、白馬村の内山、飯森となってくる」「〇〇地区に絞り選定を進めたい」とされたことから、この時点で現在の飯森に絞られたと主張した。

行政側は「いくつか作った進行書のひとつ」と説明しているが、各市村に残された復命書や書き込み内容から、次第どおりの会議内容が推測されるとした。

行政側は「顔合わせなので会議録はない」と説明しているが、同会は、11 月の広域議会ごみ処理特別委員会内で中継施設不要の根拠とされている点を指摘し、「ただの顔合わせではない」と反論。このほど異議を申し立てた。

また、行政担当者による用地選定委員会について、18 年 5 月の広域議会定例会と特別委員会内で、民間代表者による基本計画検討委の作業経過と並べて議員に説明したとしたことについて、「一つひとつの文章は間違っていないが、民間での選定と錯覚させている」と指摘。「不誠実なごまかし」と非難した。

宮田会長は「住民をだましたとしか言いようはない。形を作って住民に押し付けている」と話した。

平成 19 年(2007 年)9 月 15 日(土) 読売新聞の報道
3 市村広域ごみ処理施設 計画反対の市民団体が勉強会

大町市と白馬、小谷村の 3 市村が白馬村に進めている広域ごみ処理施設の新設計画について、計画の白紙撤回などを求める市民団体主催の勉強会が 13 日夜、白馬村内で開かれた。勉強会には約 40 人が参加した。

主催したのは「白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会」(宮田温巳会長)。

同会のメンバーが「用地選定委員会の選定過程に問題があった」などとして、情報開示請求で集めた同委員会関連の公文書などをもとに検証した。ほかに、計画の白紙撤回を求める署名数をさらに増やし、白馬村民の過半数(4650 人)を目指すことなどを確認した。

建設計画は、3 市村などが加盟する北アルプス広域連合が事業主体となり、総事業費約 41 億円をかけ、1 日約 48 トンの焼却ができる施設を建てるというもの。